

シンラの旅-3 「世界遺産富岡」 富岡製糸場の歩き方



エッセイ
芦原 伸



SINRA

CONTENTS

各見出しリンク

▶ **SINRA-1 2014.9**
「小豆島」 オリーブカントリー

▶ **SINRA-2 2014.11**
「秋田」 マタギの里へ

▶ **SINRA-3 2015.1**
「富岡」 富岡製糸場の歩き方

▶ **SINRA-4 2015.3**
「北海道」 北海道ワイン紀行

▶ **SINRA-5 2015.5**
「小笠原」 黒潮の孤島鶴来島漂流

▶ **SINRA-6 2015.7**
「大台ヶ原」 熊野古道をいく

▶ **SINRA-7 2015.9**
「信州木曾谷」 森林鉄道が消えた日

▶ **SINRA-8 2015.11**
「霊峰月山」 死と再生の小宇宙

▶ **SINRA-9 2016.1**
「丹後」 古代王国と、絹をめぐる道

▶ **SINRA-10 2015.3**
「秩父」 絶滅危惧種再生へ、開ける道

▶ **SINRA-11 2016.5**
「佐賀」 大海を越えた胡蝶の夢

▶ **SINRA-12 2016.7**
「津軽」 ブラキストン幻の海

▶ **SINRA-13 2016.9**
「五島列島」 クジラたちの海

▶ **SINRA-14 2016.11**
「飯田」 天空の里、遠山郷

▶ **SINRA-15 2017.1**
「北海道」 ジンギスカンをめぐる冒険

▶ **SINRA-16 2017.3**
「宮城県」 猫たちの聖地

▶ **SINRA-17 2017.5**
「京都」 神が授けた、いのちの水

▶ **SINRA-18 2017.7**
「熊楠」 の森をめぐる冒険

▶ **SINRA-19 2017.9**
「カナダ」 極北の大地に生命が燃える

▶ **SINRA-20 2017.11**
「宮崎」 神楽仮面の謎を探る

ご購入

 Fujisan.co.jp
雑誌がオンライン書店

ご購入

 amazon.co.jp
プライム



富岡製糸場の正門。看板には「史跡 重要文化財 旧富岡製糸場」と書かれてある。敷地内の面積は約5.5haで、東西に約200m、南北に約300m広がる

里山産業の原点に還る

時代を築いたシルクファクトリー

今年6月、世界遺産に登録された群馬県「富岡製糸場と絹産業遺産群」。1872（明治5）年に建設された、国内初の官営模範工場は世界に上質なシルクを輸出し、日本の近代化を支えてきた。時代を築いた富岡製糸場を歩くことで見てくるものは何なのか。歴史の遺構は、静かにその答えを教えてくれる。

文 / 熊倉浩靖 撮影 / 若杉憲司

大量生産された上質な生糸が女性の社会進出を促した

富岡製糸場の正門を潜る。眼前に見えるてくるキーストーン（要石）。そこには富岡製糸場開業の年である「明治五年」の文字が刻まれている。140年余の歴史をもつ富岡製糸場が今、再び人々の注目を集めている。

世界遺産に登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、「富岡製糸場」（富岡市）、「田島弥平旧宅」（伊勢崎市）、「高山社跡」（藤岡市）、「荒船風穴」（下仁田町）という、群馬県内に点在する4資産から構成されている。

なぜ富岡製糸場単体ではなく、4つの資産で世界遺産とされたのか。その理由は、4資産が生糸の大量生産を行う上で、密接に機能的に結びついていたからである。

鳥村の養蚕農家、田島弥平を中心としたカイコ優良品種の開発と普及。天然の冷蔵庫・荒船風穴での蚕種貯蔵という養蚕技術の革新。日本初の蚕業学校・高山社による養蚕技術の改良と人材育成。富岡製糸場はこの3資産と



富岡製糸場の女工の様子を描いた錦絵「富岡製糸場工女勉強之図」。研鑽を積んだ優秀な「一等工女」が身につける赤いタスキと高草履は憧れの的だった

里山の贈りもの

田島弥平や高山長五郎らの蚕種・養蚕における技術開発と普及、人材育成はその端的な例である。ユネスコ世界遺産（44ページ）



完成した生糸

出荷時の生糸。富岡では「猪口（ちよこ造り）」と呼ばれる束ね方が一般的だった

生糸商標（チョップ）

出荷時の生糸に貼られる商標で、「チョップ」とも呼ばれる。デザインは各製糸工場によって異なる



その後、群馬とその周辺は、富岡製糸場を核に産業構造の転換、社会の変革を達成してゆく。それも、単なる西洋最先端の技術や経営の受け入れではなかった。地域の伝統との融合のなから新たなものを生み出していた。

なぜ富岡が選ばれたのか。それは富岡を中心とする群馬県が日本屈指の養蚕地帯だっただけではない。器械製糸を運営するのに必要な水、石炭、木材、粘土を近くで得ることができたからだ。生糸を横浜港に運ぶ利根川水運も確保できた。そして何よりも地域の人々の熱意があった。富岡ほど理想的な土地はほかになかったのである。



産業革命を達成した欧米は、鎖国体制にあった日本を大きくリードしていた。黒船の衝撃である。

この大転換期、日本が西洋と交渉できる存在の一つが生糸だった。当時の西洋諸国は微粒子病（蚕病の一種）の蔓延によるカイコの壊滅もあって、西洋の生糸と互角の品質に達していた日本の生糸に飛びついた。だが、伝統的な生産方式では量が足りない。品質の安定も保証されない。そこで導入されたのが「器械製糸」で、1872（明治5）年、富岡に模範器械製糸場・富岡製糸場が設置された。

日本が西洋文明と最初に出合ったのは16世紀半ばのことだった。当時、彼らの文明は互角だった。日本にキリスト教を伝えた宣教師フランシスコ・ザビエルは、『聖フランシスコ・ザビエル全書簡』第3巻で、日本人は大変優れており、宣教師たちを困らせるほどに質問好きであるという旨の記述を残している。しかし、その後、科学革命・

富岡を中心とする群馬県が理想的な条件を満たしていた

良質で大量の生糸の提供は世界の生活を一変させた。絹のストッキングが低廉に出来ることで活動的なスカートに着用が可能となり、女性の社会進出を促したことは端的な例である。

富岡製糸場は、産業としての養蚕技術をフランスからいち早く取り入れ、養蚕の伝統自体を抜本的に刷新することに成功した。その結果、富岡は技術改良の拠点となり、20世紀初頭の世界の生糸市場における日本の役割を示すモデルとなったのだ。富岡製糸場を訪れると、日本の産業革命の原型を追体験することができる。

体となって初めて、良質な繭と生糸の大量生産ができたのである。

日本は生糸の大量輸出によって近代化の原資を獲得した。生糸は開国から敗戦までの1世紀近い間、輸出品の3割以上を占め続け、年輸出量が3万トン以上に達していた。輸出先の8割以上はアメリカだった。



キーストーン

富岡製糸場創業の年「明治五年」が刻まれた東繭倉庫のキーストーン（周囲の建材が崩れないように締める要石のこと）。レンガ積みアーチの上に見ることができる

東繭倉庫

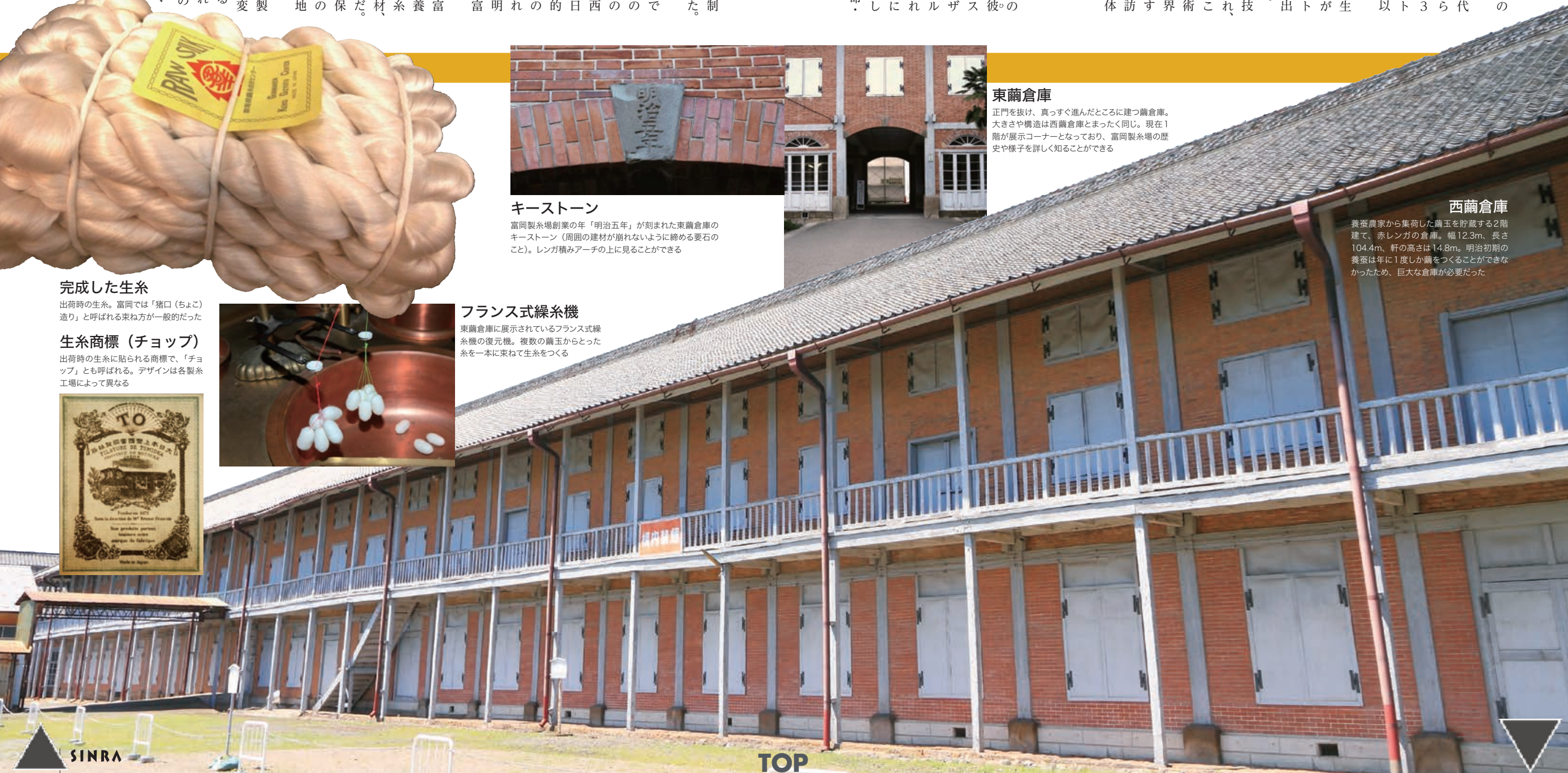
正門を抜け、真つすぐ進んだところに建つ繭倉庫。大きさや構造は西繭倉庫とまったく同じ。現在1階が展示コーナーとなっており、富岡製糸場の歴史や様子を詳しく知ることができる

西繭倉庫

養蚕農家から集荷した繭玉を貯蔵する2階建て、赤レンガの倉庫。幅12.3m、長さ104.4m、軒の高さは14.8m。明治初期の養蚕は年に1度しか繭をつくることができなかつたため、巨大な倉庫が必要だった

フランス式繰糸機

東繭倉庫に展示されているフランス式繰糸機の復元機。複数の繭玉からとった糸を一本に束ねて生糸をつくる





桐生の女工たちが入った風呂
一の湯



約100年前、機屋が当時雇っていた女工たちのために造った昔ながらの風呂。のちに公衆浴場になった。経営は五代目・吉岡藤吉さん(79)。機屋から風呂の経営を任された三代目の祖父から続いている。「子どものころは隣の家の2階が女工さんたちの寮で、街の男たちが気を引こうと冷やかに来たものだった」と笑いながら吉岡さんは当時の様子を語る。駐車場有(10台)。

- ④ 桐生市本町1-4-35
- ⑤ 0277-44-4704 ⑥ 15:00-22:30
- ⑦ 毎月7・17・27日 ⑧ 360円

大正元年創業、富岡の老舗割烹
萬屋料理店



かつて富岡製糸場の重役たちが宴会のためよく訪れていたという、富岡の伝統的な料理屋。完全個室で弁当や懐石料理などが楽しめる(要予約)。

- ④ 富岡市富岡1045
- ⑤ 0274-62-3321 ⑥ 11:00~22:00
- ⑦ 日曜、祝日 ⑧ 1,200円~

豪商・中居屋重兵衛の子孫の店
割烹 中居屋



上州生糸の海外輸出で莫大な利益をあげた豪商・中居屋重兵衛の7代目の子孫が営む割烹料理店。御膳、うな重、定食、そばなど幅広いメニューがある。

- ④ 吾妻郡樺恋村三原388
- ⑤ 0279-97-2643 ⑥ 11:00~20:00
- ⑦ 火曜

国内最大のレンガづくりアーチ橋
碓氷第三橋梁(めがね橋)



碓氷峠を代表するレンガ造りの4連アーチ式鉄道橋。高さ31m、長さ91m、使用されているレンガは完成当初で202万8,000個。アーチ橋としては日本最大規模。

- ④ 安中市松井田町坂本地内
- ⑤ 0274-385-6555 (安中市観光協会)
- ⑥ 通年開放



上州の食べ物と
温泉が満喫できる

赤岩の水車で挽いたそば
そば処 くれさか



旧六合村の手打ちそば屋。赤岩集落にある水車の石臼で挽いた地粉を使用した二八そばと十割そばが食べられる。野菜はすべて自家産で、農産物の直売も行っている。

- ④ 吾妻郡中之条町入山4049-208
- ⑤ 0279-95-3075 ⑥ 10:30~15:00頃(無くなり次第終了)
- ⑦ 水曜(冬は木曜も)

室町時代から続くおもてなしの心
四方たむら



室町時代末から約450年続く四万の老舗旅館。7種の源泉が流れており、すべての風呂が24時間かけ流し。"夏の源泉三昧"のひとつが楽しめるくつろぎの空間。

- ④ 吾妻郡中之条町四万4180
- ⑤ 0279-64-2111 ⑥ 16,200円~

絹産業を支えた道具を展示
甘楽町歴史民俗資料館



大正15年に繭や生糸の保管所として建てられた「旧甘楽社小幡組製紙レンガ造り倉庫」を改装した資料館。養蚕・製糸・織物など、絹産業を支えた資料を展示。

- ④ 甘楽郡甘楽町大字小幡852-1
- ⑤ 0274-74-5957 ⑥ 9:00~16:30 ⑦ 月曜(祝日の場合は翌日)、12月29日~1月3日 ⑧ 200円(中学生以下は無料)

天明5年建築、茅葺き屋根の民家
旧鈴木家住宅(沼田市南郷の曲屋)



天明5年に建築された「曲屋」(母屋と馬屋がL字型に繋がった家)。東北に多い建築様式で、県内では珍しい。のちに蚕室を造るなどの改装が行われた。

- ④ 沼田市利根町日影南郷158-1
- ⑤ 0278-54-8611 ⑥ 10:00~16:00
- ⑦ 木曜、12月29日~1月3日 ⑧ 大人100円、小人50円



ここに行けば
蚕糸業がわかる

シルクの総合博物館
群馬県立 日本絹の里



繭や生糸に関する資料や群馬の絹製品を展示。群馬県の蚕糸業の歴史をはじめ、カイコから繭や生糸ができるまでの過程がわかる。絹を使った染織体験も行っている。

- ④ 高崎市金古町888-1
- ⑤ 027-360-6300 ⑥ 9:30~17:00
- ⑦ 火曜、12月27日~1月5日、各企画展3日前 ⑧ 200円

富岡の元女工が50年通う
食堂 富士屋



かつて富岡製糸場の女工たちがクリームあんみつを食べに訪れた富岡市内の食堂。あんこ、寒天、求肥(ぎゅうひ)、アイスクリームからシロップにいたるまで、すべて手作りというこだわりは、創業から約60年経つとも変わらない。近所に住む元女工の野尻照子さん(81)は今もクリームあんみつを食べにやってくる。「夏の縁糸場は暑くて辛かった。でも、友達とあんみつを食べに来た楽しい思い出の方が強く残っている」と青春時代を振り返る。女工たちの思い出の店。

- ④ 富岡市富岡1072
- ⑤ 0274-62-0752 ⑥ 10:30~18:30
- ⑦ 水曜 ⑧ 450円(クリームあんみつ)

桐生織の帯を創作
後藤織物工場



江戸時代に「西の西陣、東の桐生」とうたわれ、織物の一大産地として栄えた桐生。そのシンボルである「ノコギリ屋根」が残る老舗機屋。明治3年に創業し、洋式染色技術を導入し織物の改良を行うなど、桐生織物業に貢献してきた。現存する工場のほか、織物倉庫など国の登録有形文化財に指定されている施設の見学が可能。

- ④ 桐生市東1-11-35
- ⑤ 0277-45-2406 ⑥ 10:00~16:00(要予約)
- ⑦ 金曜、土曜、日曜、祝日(都合により不可日あり) ⑧ 無料

群馬県
人口 / 1,977,013人(2014年)
面積 / 6,362.33km²
問い合わせ / 群馬県観光物産国際協会
☎027-243-7271

